

ネパール大地震レポートと復興支援トレッキング

今年4月25日に発生したネパール大地震では多数の犠牲者と建物等の倒壊という大きな被害をもたらしました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げます。

ネパールでのトレッキング・登山実施における当社の長年の現地パートナーである、コスモ・トレック株式会社の大津昭宣・二子子夫妻が6月に一時帰国され、現地の貴重な情報を伺うことが出来ました。(聞き手：営業部 鈴木史織)



左から二子子社長、昭宣氏、弊社・鈴木

今回の地震とその被害の概要をお聞かせ下さい

- 地震の後、ツアー中のお客様の確認には3日間掛かりましたのでその間は胃が痛くなりました。
- カトマンズの北西約70Km ゴルカ郡を震源とする本震はマグニチュード7.8の大きな地震でしたが、日本から調査に見えた学者の方は震度5弱か大きくても5強とっておられました。
- 世界遺産など古い建物や街は構造的に地震に耐えられないのは仕方ありません。

丈夫な建物を建てられない多くの人達が日干レンガを使うのも仕方ありません。

そのような建物の多い旧王宮広場、アッサン等の旧市街に被害が集中しました。

カトマンズは地盤が弱いのも原因でしょうか。地方や山間部は平地が少ないので地滑りによる被害が中心です。

- その後の二つの大きな余震では最初の地震によく持ちこたえていた建物も全壊してしまい、むしろこちらの被害の方が大きかったと思います。



倒れる前(左)と倒壊したピムセンタワー

- 今回の被害は震源から東南東方向に集中していて、震源の西側や東側の離れている所は大きな被害がありません。

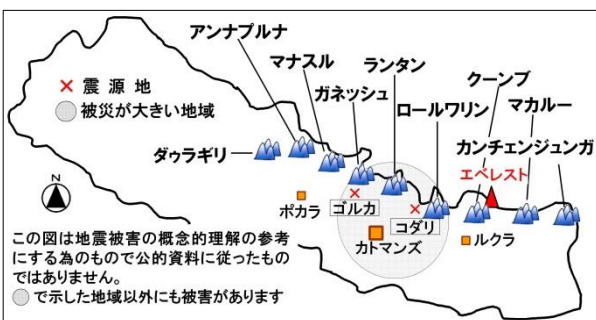
注:1832年ピムセン・タパ首相によって建てられた見張塔。カトマンズで一番高い建物。1934年の地震で崩壊したが再建され、2005年から一般公開された人気の観光スポット。カトマンズの旧市街にある。



コスモトレック社(カトマンズ)5/11



カトマンズ旧市街 5/11 撮影



日本ではネパールは地震の巣との報道もありました

- ネパールでは小さな地震はあります。私達もネパールに住んで40年を越えましたがこんな大きなものは初めてです。ネパールは昔に大地震はありましたが(1931年/本紙注)、その後大きな地震はありません。今のネパール国民は大きな地震の体験がありません。今回の本震、余震でパニックになり恐怖心に怯えていてとても気の毒です。地震頻発国ではありませんが地震はあります。

地震から2か月たちましたがその後の様子は

- 私達が帰国する時(6/16)には、世界遺産のパタン、バクタプール、ダルバール広場の立ち入り禁止が解かれました。少しずつですが修復に向かうと思います。バシュパティナート、ボウダナート、スワヤンブナートは幸いにも被害が小さかったのですが、バクタプールは街自体が古いので被害が大きくなりました。西側の都市のポカラでは被害はありませんでした。

- 一 JAICA 職員などが大勢住んでいるパタンで被害にあった日本人はいません。タメルも被害なしです。カトマンズ市内は街中瓦礫ではありません。倒壊建物は旧市街等に行かないと見られません。
- 一 カトマンズ市内で目立つのは空地に建つ多くのテントで、被災者と自主避難者の双方が利用しています。自主避難者は日中には自宅で生活し地震が怖い夜はテントで寝るといふ人達が大半ですので、人心が落ち着けばテントは減ってゆくと思っています。
- 一 カトマンズでは水や電気のインフラは停電や断水のある以前に戻りました。(笑)



トレッキング エリアへの影響は

- 一 被害の大きかったのは震源に近いランタンとヘランブーです。ランタンは谷の狭い場所も多く山裾の村々は地滑りの被害にあいました。地すべりは家の強度には関係なく村全体を壊してしまいます。道の下に村人が埋まっていることが判っている所を歩くのは心情的に難しいでしょうね。
 - 一 アンナプルナは全く問題ありません。クーンブの被害は皆無ではありませんが一部を除き軽微です。ナムチェ・バザール、タンポचे、ゴーキョやカラパタル方面は全く問題ありません。ルクラとナムチェの間のジョサレ周辺は V 字谷になっているので、落石の恐れのある石を片付ける工事を秋までに終わると現地は云っています。ターメ、コンデはロールワリンに近いので被害がありましたが、ロッジ等は石積みなのでこちらも秋までには修復すると云っています。
- 雨期を挟むもののロッジや道路の被害は秋までに復旧しないと、ロッジのみならずネパールがへたってしまうから、政府も民間も必死です。



現地は私達にどんな期待をしているのでしょうか

- 一 トレッキングや登山に関係する人達はお客様が来ないと収入がありません。ネパールに来て頂いてお金を落して頂きたいというのが正直な心からのお願いです。お金が関係する人達に広く、直接行き渡ってゆく最前の支援です。
 - 一 この国の主産業は観光なので、政府も是非来て下さいと云っています。
- 一 お医者さんや技術者などは関係政府機関への登録・許可を経て活動出来るので歓迎されるでしょう。一般のボランティアは被害地の状況が悪く受け入れる体制がありません。小さな村でお菓子を配ろうとしたら、村人全員に行き渡らないなら揉め事の原因になるので郡長から止められたという話もあります。どうしてもと希望する場合は郡長の許可が必要です。

弊社より

ネパールの主産業である観光を支援することが私共の義務であると考え、安全の確認の取れたコースは募集を継続してまいります。今日は旅のお疲れのところ貴重なお話をありがとうございました。

ネパールのコスモトレック社

1973年登山家大津昭宣・二三子夫妻がネパール・カトマンズに渡り、その後ヒマラヤ登山を扱う会社を興した。既に遠征隊 320 隊、トレッキング・ピーク 400 隊の取扱実績をもつ。日本登山界では著名な二人。社長は二三子氏。

(2015年9月1日発行、弊社PR紙「いい旅 いい仲間」より転載)

